

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0902006
	②		福祉	H0602064
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	入新井保育園			
事業所連絡先	〒	143-0024		
	所在地	東京都大田区中央2丁目16番17号		
	TEL	03-3772-6777		
事業所代表者氏名	金澤 理枝			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 10月 20日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 10月 20日			
訪問調査日	2023年 10月 27日			
評価合議日	2023年 10月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 28日

事業者代表者氏名

金澤 理枝

印

1	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b> 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 子どもの人権や主体性を尊重する 2) 安心安全な（人的・物的）環境 3) 子どもの発達を保障する 4) 保護者支援（働きながらの子育てとの両立） 5) 地域との連携
2	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b> (1) 職員に求めている人材像や役割 ・強い気持ちを持って仕事に取り組もうとする姿勢がある ・人権を尊重し、一人ひとりの子どもに寄り添った保育ができる ・保護者のニーズを敏感に感じ、寄り添った支援ができる  (2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・大田区の子ども一人ひとりを大切に思って何ができるか常に考えて行動してほしい ・人権擁護の観点から常に自身の行動を振り返ってほしい

調査対象

2023年7月7日現在の施設の利用者(保護者) 109世帯(利用者総数 123名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担当が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

123

109

109

88

80.7

## 利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(93%、82人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか  
(99%、87人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか  
(98%、86人)

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか  
(97%、85人)

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	87	1	0	0
日々少しずつですが成長しているように思います。 家で教えてないことを 保育園で習ってきています。例えばお片付けを知らないうちに一人でできるようになって感動しています。 色々な人とのコミュニケーション、遊びの中で成長してくれています。ありがとうございます。 などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	86	2	0	0
色々な遊びやイベントなどを行ってくれていると感じています。 泥遊びや 小麦粉粘土など家でできない遊びができるのは大変嬉しいです。 保育士さんも、電車が好きな子供の性格をよく理解して、そうした遊びのスペースを設けてくれています。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	83	5	0	0
試食したこともあります、大人が食べても美味しく、子供もしっかり食べています。 子どもが毎日給食とおやつの献立を見て楽しみにしています。 家では食べない物や調理方法でおかわりもしている様です。調理係の先生の名前も覚えているので関係も良いようです。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	71	17	0	0
色んな体験・経験を学べる機会がもっと多いと有り難いと考えております。 コロナ明けなので仕方ないと思っています。その中で保育士の先生方が色々と企画しているので満足しています。 園庭での遊びや、季節ごとの行事(夏祭りなど)など充実しています。 などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	70	14	0	4
ギリギリでの電話になっても対応してもらっています。 たまに遅くなって電話をするとき、いつも気遣いにあふれた対応をしてくださるのでありがたいです。 電話一本で対応してくれるので、非常にありがたいです。 などの意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	73	13	2	0
何かトラブルがあった時の対応は早いと思います。 移動やプールの際など、気を配って頂いております。 火災訓練や地震訓練など実施しているそうです。 などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	57	26	4	1
事前に日程を配布物で連絡してくれる。 私立園は保護者が土曜日開催なのがよかったです。 などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	72	14	2	0
連絡帳や送り迎えのときに、こまめにコミュニケーションを取っていただき大変助かっています。 おむつがなかなか取れない時に、相談に乗って頂き、また保育園の方でも多くのサポートがあり、本当に助かりました。ありがとうございます。 定期的に面談の機会を設けてくれています。また保育士さん方はとてもフレンドリーです。 などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	85	2	1	0
いつも綺麗に清掃頂いていると思います。 整理整頓されています。土曜日シーツ交換に行くときとても綺麗に片付けられています。普段も子供が安心して遊べると思います。 などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	77	11	0	0
子供を良くしてくれる気遣いの素晴らしい先生が多いです。 とても丁寧に接していただいていると思います。 他の学年の先生方も子どもの名前を呼んで声掛けをしてくださります。 などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	80	6	2	0
<p>小さな怪我でも報告していただきます。熱が出ても様子をみてくれています。      早め早めにご相談いただいております。      一度園内で子供が怪我した際は、すぐ病院に付き添ってくれました。      などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	65	20	1	2
<p>小さなことでも共有くださり助かっています。      と言った意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	81	6	1	0
<p>よく耳を傾けてくださっているように思います。先生の立ち居振る舞いから学ぶことも多いです。      子供の性格をよく分かってくれ対応して下さっているのを見聞きする中で感じるのので全面的に信頼しています。      子供の好きなものや特徴を理解して、その子に応じた保育を考えてくれています。      などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	77	9	1	1
<p>特記すべき意見なし。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	73	14	1	0
<p>連絡帳で毎日細かなエピソード交えて教えて下さるのが毎日の楽しみです。      連絡帳に詳細な様子を記載して下さるので把握できております。      何かあったときは、率直にお話しいただいております。      などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	67	19	0	2
<p>不満に思ったことはないですが、もし何かあれば真摯に対応くださると思います。      いつもスピーディーに対応いただいております。      などの意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	62	19	6	1
<p>特記すべき意見なし。</p>				

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<b>新入園児オリエンテーションや年度初めの保護者会において、理念や目標を説明している</b> 「大田区立保育園・保育目標」6項目の下に、3項目の「入新井保育園 保育理念」、5項目の「保育方針」、4項目の「保育目標」が定められている。職員は年度初めの職員会議で読み合わせをしたり、「保育の内容に関する全体的な計画」を作成する時に確認しあっている。保護者等には、「保育園しおり」「重要事項説明書」等に「運営及び保育方針等」を記載し、新入園児オリエンテーションや、年度初めの保護者会において説明している。職員、保護者の目に入りやすい玄関に掲示していつでも確認できるようにしている。	
	<b>職員会議や各パートとの打ち合わせで、リーダーとしての助言指導を行っている</b> 「区立保育園の組織」「保育園における業務分担」が作成され、園長を始めとする各職の「業務内容」が明示されている。園長は「労務管理・運営管理・職員育成・渉外活動」について、詳細に説明されている。他に園長会で話題になったことや決定されたことの報告、「区立保育園職場研修」の情報提供し、職員会議や各パート(クラス職員の各階層)との打ち合わせで、リーダーとしての役割に基づき、助言指導を行っている。また課題や問題が発生した時は直ぐにリーダー会を招集し、解決に向けて検討し、迅速な対応に繋げることができるようにしている。	
	<b>行事の中止や変更等は、根拠を示し、説明している</b> 保育園マニュアル「15・打ち合わせについて・リーダー会」には、「リーダー会は園全体の組織に関わることで、職員の資質向上・子育て支援に関わることを討議・決定・全体周知する」と定められ、毎月開催され、園長、主任、各リーダーが出席している。リーダー会で決定したことは、「職員会議」で報告し周知している。保護者に対しては、園からの手紙として「園だより」「クラスだより」「給食だより」「保健だより」を配布し園内に掲示している。今年度多発したプールや水遊びの中止は、熱中症警戒アラートに依拠して決定していることを説明した。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>「利用者調査」では様々な意見・要望が寄せられたが、園の対応をフィードバックする</p> <p>これまで保護者会、運動会をはじめとする各行事については終了後にはアンケートを実施し、保護者のニーズを把握している。また、保護者面談を実施し、直接の意見や要望をお伺いして「個人面談記録」に残し、園として対応を決定し、保護者会等でフィードバックしている。今回の第三者評価で行われた「利用者調査」では、保護者会の開催曜日や時間帯をはじめ、濡れ物・汚れ物への対応、イベント以外の日常スナップの購入他、様々な意見・要望が寄せられ、集約して園の対応をフィードバックすることになっている。意見箱への投函はなかった。</p> <p>職員から話が出た場合は園長・副園長で共有し、対応について検討している</p> <p>年3回実施している職員面談では、園やクラスでの人間関係や現状に対する思い、研修の希望、働くにあたっての健康状態、家庭の事情等について確認している。また、日頃よりこまめに声をかけ、話しやすいようきっかけづくりをしている。職員の希望する研修の案内があった時は、忘れずに声をかけ、「自分のことを気にかけて貰っている」という思いになれるように心がけている。職員から話が出た場合は、園長・副園長で共有し、対応について検討している。職員が納得し、気持ち良く仕事に取り組めるよう、心がけている。</p> <p>単年度の計画の策定は実施されているが、計画の着実な実行の明確化が求められる</p> <p>保育園目標の実現を目指し「入新井保育園 運営計画(中期計画)」が作成されている。園の「運営基本理念」「目指す保育園・目標」を実現するため、「保育環境」「保育の質の向上」「災害・危機管理」「健康支援衛生管理」「子育て支援」「地域交流」の6課題について、「令和3年度、4年度、5年度」各年度に行う具体的な活動が明示されている。ただ、定性的な表現が多く、どのような状態になったら、年度の活動が達成したと評価できるか、より明確にしていくことが望まれる。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当



サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1  
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2  
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

PTから出された事例について人権の観点から考えグループで気付いたことを話し合った  
福祉サービスに従事する者としての基本的な事項は「職員の手引き」に定められ、年度初めの職員会議で読み合わせをしている。また、全国保育士倫理要綱の読み合わせも行っている。人権については全職員に「人権擁護チェックリスト」を実施し、園内研修PTでは、「『人権擁護』…入新井保育園で子ども達の権利が守られる保育を考える」ことを狙いとした「園内研修」を6月、7月に実施した。PTから出された事例について、人権の観点から考え、グループで気付いたことを話し合い、「人権擁護ミーティング」の記録を残している。

子どもの気持ちを傷つけないよう“NGワード”集を職員に配布している

苦情解決制度については「重要事項説明書」に明記され、新入園児オリエンテーションや年度初めの保護者会で説明している。また、園内には「保育園苦情窓口」として2名の第三者委員が紹介され「福祉オンブズマン制度」も案内されている。「意見箱」が設置されているが、これらの機会が利用されたことはない。子どもの気持ちを傷つけないよう“NGワード”集を職員に配布している。年に1～2回子どもへの虐待の疑いが見られたが、都度、子ども家庭支援センターに連絡した。事後、センターから報告書が届き、子どもの当園は続いている。

地域への子育て支援として保育園見学会他5項目が4期に分けて具体的に計画されている

行事のお誘いや園の情報を図書館、児童館、園前掲示板等に掲示している。園長等が窓口となって、昨年度は看護師実習生7名、保育実習生2名を受け入れた。「令和5年度入新井保育園子育て支援計画」には「地域への子育て支援」として、保育園見学会、育児応援事業、園庭開放、子育て相談、地域子育て支援が4期に分けて具体的に計画されている。地域の一員として、公立園だけでなく認証保育園との情報交換するため地域会議に参加し、園長会や学校運営協議会等の地域ネットワークに参加し、行事へお誘いしたり、他園の行事に参加している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>事故については発生時の対応が、防災については様々な想定の下に訓練が実施されている</p> <p>事故、感染症、防災、防犯等を主要なリスクと捉え、「事故対応マニュアル」「避難訓練担当者手順マニュアル」「地震発生時の対応」等が作成されている。一番のリスクは事故と考えており、発生時は即時に関係者と話し合い、原因分析を行い、「怪我報告書」「ヒヤリハット記録簿」を作成し、今後の対応を保護者に伝え共通認識としている。また、防災について「令和5年度避難訓練計画」が作成され、4月～来年3月まで、地震、火災、水害、台風等、様々な想定の下に、訓練内容、点検、職員の業務、防災教育等が明示され、実施されている。</p> <p>園の業務継続計画「BCP」が作成・更新され、「応急避難所」の訓練を実施している</p> <p>『大田区立入新井保育園 業務継続計画「BCP」』が作成され令和5年度版に更新されている。初動対応、大災害時の対応、非常時持出しリスト、非常時備蓄品リスト、被害状況チェックシート、緊急連絡先・協力先リスト等が整備されている。「保育継続計画の運用と管理」には今年度の職員の「基礎学習と訓練」計画が作成されている。園は地域の福祉避難所なので、職員はマニュアルや計画書に基づき「応急保育所」「福祉避難所」訓練を実施した。園の非常食が3日分であることから、保護者には3日以内に迎えに来られない時は小学校への迎えを伝達した。</p> <p>個人情報が含まれる文書類は事務所でいつでも確認できるが持ち出す時は管理されている</p> <p>職員は「個人情報保護取り扱いファイル」に記載された個人情報守秘義務について読み合わせし共通理解している。個人情報が含まれる「児童調査表」「児童票」、アレルギー関係は、事務所の棚に保管し、何時でも確認できるようにしているが、事務所から持ち出す時は「個人情報文書管理簿」に文書名を記載し、返却時も確認している。一般秘の情報についてはパスワードを付したフォルダーに収納され、園長・副園長・主任のみアクセスできる。実習生にはオリエンテーション時に遵守の署名を貰っている。職員個人のUSBは園内持ち込みを禁止している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1  
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

職員育成指針、育成計画は周知され、園長は職員面談を通じ業務上の課題を明示している

「大田区職員育成基本方針」に園長、副園長・主任、保育担当係長、保育連携職員、保育巡回員、リーダー保育士、保育士、看護師、栄養士、調理職員の「求められる職員像」が、「職員育成計画」には保育士(1年目、4年目、5年目)、保育担当係長等、主査、主任・副園長、園長の「園内での役割」「求められる資質」「保育サービス課研修項目」が記載され、職員に配布・周知されている。年に1回昇任試験受験の案内が来る。年3回行われる職員面談では、本人の「キャリアデザイン」を明確にさせ、園長からは業務計画の課題を提示している。

「面談シート」の「研修計画(自己啓発)」欄には、「具体的計画」他が記載されている

職員面談の際に記録する「面談シート」には、「キャリアデザイン」に将来像と実現プロセス、「研修計画(自己啓発)」に「本人の希望」「園長からの希望」「具体的計画」が記載されている。中間での「取組みの状況」、終了時の「振り返り」「評価」も記載されている。研修は「区立保育園職場研修年間予定表」(計26件)が中心となるが、面談時に希望を聞き、研修案内が来た時に要望に応えるようしている。新入職員の指導を担当する職員には「新人育成リーダー研修」を受講させ、育成計画に基づき指導を行い、定期的に面談も実施している。

話し合う機会を多く持ち可能な取組みを行えるようになりコミュニケーションが前進した

研修に出席した職員は、研修内容の職員会議での報告を通じ職員間で共有化している。日頃の気づきや工夫については、朝礼ノートや打合せ記録に残し、クラス打合せやリーダー会に持ち寄り、意見交換を行っている。リーダー会では職員から吸い上げた意見を基に話し合いを行い園運営に活かしている。職場以外の場所でのリフレッシュしながらの機会も設けている。コロナ禍でコミュニケーションが取りづらく、チームワークを促進することが難しい状況にあったが、現在は話し合う機会を多く持ち、可能な取組みを行えるようになり、前進したと評価している。

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<b>【背景及び課題】</b> 理念でもある「子どもも大人も楽しいと思える保育園」がコロナ禍で失われつつあったため、「子どもが主体的・意欲的に遊べる保育環境が充実している保育園」を目標とし、“やりたい! 遊びたい! 子どもが主体的に遊べる環境づくり”をテーマに園全体で取り組むこととした <b>【取り組み】</b> 園内研修の中で“主体的に遊ぶ”の意味を話し合い、共通理解することから始めた。「子どもにとって主体的な環境になっているか」「子どもの主体性を大事にした関わり方になっているか」を悩み、試行錯誤しながら環境を改善した。今年度は乳児(1歳児)に絞り、近隣の32保育園にも周知し、外部講師を招き、11月24日に公開保育を行った。 <b>【取り組みの結果】</b> おもちゃの内容や置き方、声の掛け方、部屋の何処に何を置き、導線をどうするか、レイアウト等の環境の工夫を試みた。講師には「公開保育」後の講評いただき、質疑応答を行った。 <b>【振り返り(検証)・今後の方向性】</b> 子どもが主体的に遊べる環境になってきたと評価している。公開保育で出た意見や課題を検討し、改善していきながら、今年度は幼児(3歳児)で近隣園の保育士も招いて公開保育を行い外部講師に講評を頂く。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 理念でもある「子どもも大人も楽しいと思える保育園」がコロナ禍で失われつつあったため、「子どもが主体的・意欲的に遊べる保育環境が充実している保育園」を目標とし、“やりたい! 遊びたい! 子どもが主体的に遊べる環境づくり”をテーマに園全体で取り組むこととした。具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みが行われている。 おもちゃの内容や置き方、声の掛け方、部屋の何処に何を置き、導線をどうするか、レイアウト等の環境の工夫を試みた。講師には「公開保育」後の講評をもらい、質疑応答を行った。その検証の中から取り組みについて、“子どもが主体的に遊べる環境になってきた”と評価している。 公開保育で出た意見や課題を検討し、改善していきながら今年度は幼児(3歳児)で近隣園の保育士も招いて公開保育を行い、外部講師に講評をもらうと、次期の事業活動や事業計画へ検証結果を反映させている。 重要課題に向けての取り組みは、PDCAが適切に回り、成果をあげていると評価できる。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【背景及び課題】

虐待や不適切保育が世間からもクローズアップされ、自園でも見直しが必要だと感じ「子どもの自己肯定感の育つ保育園」を目標とした。

【取り組み】

年度初めに「全国保育士倫理要綱」の読み合わせをし、全職員に「人権擁護チェックリスト」を実施した。また、園内研修プロジェクトの「ねらい」に「『人権擁護』入新井保育園で子ども達の権利が守られる保育を考える」を設定、6月、7月研修を実施した。具体的な事例を用いて、先ず、自分で考えてからグループで考えることで、不適切な保育についても相互に学びあった。また、クラス担任でない職員が些細なことでも声をかけるようにした。

【取り組みの結果】

少しずつではあるが、子どもや保護者、職員すべてに対しての関わり方や言葉のかけ方を話し合えるようになってきた。「今の私の言い方ちょっとよかった?」「どうやって伝えればいいかな?」「その言い方がいいんじゃない」と指摘だけでなく良いことを認める言葉も出てきた。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

気になっても言わなかった状態から、言い合える環境になってきたが、今年度も事例検討会を職員会議で続け、“出来ていると言えるレベル”まで引き上げる。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

虐待や不適切保育が世間からもクローズアップされ、自園でも見直しが必要だと感じ「子どもの自己肯定感の育つ保育園」を目標とした。「全国保育士倫理要綱」の読み合わせ、全職員に「人権擁護チェックリスト」を実施、園内研修で「『人権擁護』入新井保育園で子ども達の権利が守られる保育を考える」を設定、6月、7月研修を実施した。

様々な取り組みの実施の結果、少しずつではあるが、子どもや保護者、職員すべてに対して、「今の私の言い方ちょっとよかった?」「どうやって伝えればいいかな?」「その言い方がいいんじゃない」と指摘だけでなく、良いことを認める言葉も出てきた。かかわり方や言葉のかけ方を話し合えるようになってきたと、目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っている。

気になっても言わなかった状態から、言い合える環境になってきたが、今年度も事例検討会を職員会議で続け、“出来ていると言えるレベル”まで引き上げる”と次期の事業活動や事業計画へ検証結果を反映させている。

重要課題に向けての取り組みは、PDCAが適切に回り、成果をあげていると評価できる。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用を希望する人々に対して区のホームページやパンフレットで園の情報を提供している</p> <p>保育園に関する基本情報は区が集約し、入園を希望される方が、保育目標や行事予定、保育室の様子が分かるように園内外の写真を掲載したホームページが閲覧できるようになっている。園の見学者に配布するパンフレットには保育園の情報や地区の情報も載せ、保育園の利用を検討、希望されている多くの方に保育園の情報が伝わるようにしている。パンフレット以外にも、園紹介カードを作成し、園庭開放や子育て相談受付の情報なども掲載し、戸外活動で散歩に出かけた公園などで未就園児を連れて来た対象の方に、園紹介カードを配布し園の情報を伝えている。</p> <p>行政や関係機関等と連携し、地域の子育て家庭に向けて園の情報を提供している</p> <p>地域の保育園の利用を希望される方や子育て家庭に向けて、1~2か月に1回程度保育園に遊びに来てもらう地域交流を行っている。「入新井だより」として春号、夏号、秋号など季節ごとに園の取り組みや地域交流の様子を写真とともに掲載している。「入新井だより」は、園の入り口の掲示板の他、児童館や出張所、保健所などにも掲示してもらい、参加を呼び掛けている。参加された方に丁寧に関わることができるように1回の参加人数はおおむね5組までと制限し安心して参加してもらえよう配慮している。</p> <p>保育園についての問い合わせや見学について、丁寧な対応を心がけている</p> <p>今年度から園見学会を再開し、2か月に1回程度行っている。ただし、10月、11月は見学希望者が増えるため、それに合わせて開催日や回数も増やしている。園見学の希望があった場合は決められた日程に集まっておき担当職員が園の概要をプレゼン用ソフトを使って分かりやすく説明し、園内を案内している。日程の都合がつかない場合は個々に相談し別日に案内している。午前、または午後の子どもの様子を実際に見ていただき日常の保育の様子をお伝えしているが、子どもたちの保育の妨げにならないよう5組までと参加人数を制限している。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p><b>入園開始にあたり、面接及び入園説明時に基本的ルールや重要事項を説明している</b></p> <p>入園が決まった利用者に対しては、入園に必要な書類一式を取りに来て頂き、面接とオリエンテーションをそれぞれ別日に実施している。面接は職員が行い、保護者から提出していただいた書類をもとにお子様の様子や保護者への確認事項などの聞き取りをしている。その後、最終的に園長が保護者と面談し、質問や不安な気持ちを受け止めながら入園に向けての不安を軽減できるよう配慮している。オリエンテーションでの説明事項について理解していただいたうえで、個人情報(プライバシーポリシー)に関しての同意を書面にて得ている。</p> <p><b>入園当初は子どもの不安やストレスを軽減するため、個別状況に応じた対応をしている</b></p> <p>利用開始時に保護者の要望や子どもの状況を把握し、児童票を中心とする個人記録に記載している。入園前面接は職員がおこない、最終的に園長が行っている。離乳食や食物アレルギー、または健康上特別な配慮が必要な子どもの保護者とは、栄養士や看護師も直接面談し対応している。面接後は、新入園児面接記録をもとに職員会議で共有している。新入園児は新しい環境に慣れるまで、保護者の就労の状況や意向を確認しながら慣れ保育を実施し、少しずつ保育時間を延ばすなど子どもが安心して園の生活に慣れるように配慮している。</p> <p><b>退園時には、子どもや保護者の不安が軽減できるよう継続性に配慮した支援に努めている</b></p> <p>退園や転園時には保護者や子どもの不安が軽減できるように継続して子育て相談などを利用できることを伝え支援の継続に努めている。卒園時には、小学校へ保育所児童保育要録や就学支援シートを提出し、子どもの情報を小学校と共有し継続した連携と支援ができるように努めるとともに、保護者や卒園児には、いつでも遊びに来てもらえるようカードや言葉で伝えている。</p>		



サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの育ちや発達の記録を決められた様式に記録し 定期的に見直しを行っている

子どもの育ちの記録や個別記録、個人面談記録など、子どもの状況を把握するうえで必要な事項は決められた書式に記録している。子ども一人ひとりの発達状況やその経過、日々の心身の状況や生活状況など、課題の抽出と評価をクラスの打ち合わせや職員会議で明確にしながら、情報の共有をしている。アセスメントについては、週案や月案、年間指導計画等、週・月・期・年間の反省等、見直しをそれぞれ定められた時期に行い、保育に活かすようにしている

全体的計画をもとに各計画を立案し、保護者に子どもの育ちの目標や方針を伝えている

全体的な計画に基づいて、クラスごとに年間指導計画から月案・週案・日案の計画におろし、保育を行っている。期・月・週ごとに子どもの姿や保育の振り返りをし、保育計画の見直しを行っている。個別に作成する「すくすくプラン」の書面を使い、保護者と個人面談を実施し、前期後期と定期的に、家庭の姿や園の姿を共有し保護者の意向を汲み入れながら個々の保育の目標を立てている。「すくすくプラン」では大切にしたいことや伸ばしたい力、育てたい力を中心に子どもの姿が記載できるようになっており、成長の変化が保護者にわかりやすくなっている。

各職員会議で情報共有し、朝礼を活用して情報共有の強化を図っている

全職員による職員会議や、リーダー会議、クラス打ち合わせ、PT打ち合わせ、係の打ち合わせ、フリー会議、非常勤打ち合わせ、給食会議等々、様々な会議を定められた時期に実施し情報の共有や課題等の話し合いを行い、保育の向上に努めている。園内研修で人権についての話し合いや学び合いを行うとともに、職員会議の前には毎回、人権の事例を持ち寄り、人権に配慮した保育についての理解を深め学び合う機会を設けている。日々の子どもや保護者の情報は朝礼で共有したり、各クラスの引き継ぎノートで共有している。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>入園時に個人情報の取り扱いを説明し、保護者の意向を確認し、同意を得ている</p> <p>個人情報の取り扱いについては入園時の重要事項説明書の中で「個人情報保護法について」が記載されており、園内での個人情報の具体的な取り扱いも含め、保護者に丁寧に説明している。個人情報の利用目的については、児童調査票や連絡帳、行事等の子どもの写真の掲載、園内写真の掲示などの取り扱いや転園に際する区立保育園間個人情報の受け渡し等、大田区立保育園のプライバシーポリシーに基づいて、保護者に説明し同意を得ている。また、保護者が園の行事等で撮影したビデオや写真などの取り扱いについても記載し、注意喚起している。</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、その子にとって最善の支援を行うよう努めている</p> <p>集団の中でも個々を大切に、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めて寄り添う援助を行うように努めている。子どもの羞恥心に配慮した支援として、おむつ替えの際には個々に行い、他者から見えないようにしている。通常保育では、着替えの時は全裸にならないように、上下別々に着替えるよう子どもたちに伝えている。幼児クラスでは着替えの際には男女別々に着替え、カーテンで見えないように配慮している。</p> <p>会議や研修を通じて知見や意識を高め、全職員で虐待に対する理解を深めている</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援については園内研修を実施したり外部研修を受講するなど、常に最新の動向と知識の習得を目指している。登園時の保護者の様子や子どもへの言葉かけ等、子どもの変化に注意し、見逃さないように努めている。また、不適切保育を予防、防止する取り組みとして、職員会議前に事例を持ち寄り不適切保育について考えたり、園内研修では「人権に配慮した保育とは」を全職員で考え、子ども一人ひとりの個性や人格を尊重し、大切に保育の共通理解を深めている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>マニュアルや手引書は、いつでも確認できるように整備し、職員の共通理解に努めている</p> <p>保育園業務マニュアルをはじめ、日常業務を行う際に必要なマニュアル、手引書は常時事務所に設置され、手順を見直したい時などいつでも閲覧可能となっている。一定水準のサービスの提供を行うために、保育園基準マニュアルは定期的に区が見直しを行い、保育園は保育園基準マニュアルや園独自のマニュアルを活用し、チェック表や点検簿を用いながら安全な保育運営に努めている。</p> <p><b>園独自の手順書を策定し、会議等で見直しを行い保育の標準化を図っている</b></p> <p>園独自の手引書(手順書やマニュアル)を作成し、保育の標準化を図っている。手引書はリーダー層を中心に見直しを行っている。月2回のリーダー会議では各クラスや園全体での気づき、意見をもとに話し合いを行い、迅速に対応が必要なものや次年度に向けての見直し・改善が必要な物など事案に分けて対応している。各種行事は企画書をもとに、計画、実行し、終了後に担当や各クラスの反省・振り返りをまとめたものをもとに職員間で確認共有をし、必要に応じて変更しながら次年度に活かしている。</p> <p><b>提供しているサービスは、保護者や職員の意見を反映し見直しをしている</b></p> <p>保護者の意向や意見は、毎日の送迎時の対話や保護者会の中で把握したり、行事後の保護者アンケートの感想や意見から把握している。行事終了後の保護者アンケートやご意見などは、必要に応じて回答を記載したものを各クラスの入り口に掲示をしたり、おたよりでフィードバックをするなどしながら、次年度の行事や保育の計画にも反映している。また保護者からのご意見、要望の内容によっては、職員会議等で検討し改善が必要なものは迅速に対応している。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p><b>子どもが興味を持って主体的に関われる環境を工夫している</b> 一人ひとりの子どもを取り巻く生活環境や発達過程は、入園時の発達過程を知る書類一式、日々の連絡帳、毎日の送迎時の保護者との対話、個人面談等で発育・発達・家庭状況を把握している。子どもが主体的に意思を持ち、様々な遊びや経験を通し、保育者や友達と遊びを楽しめるよう配慮している。各保育室内の玩具や絵本等は子どもの年齢や発達に合ったものを整え、ホールや園庭では体を動かすなど、遊びを自ら選択できる玩具等の配置や空間の構成に工夫をし、子どもの育ちを支える保育環境を整えている。</p> <p><b>子ども同士のトラブルは、発達段階を考慮して互いの気持ちを尊重して対応している</b> 発達の過程で生じる子ども同士の喧嘩やトラブルは大切な経験と捉え、保育者は双方の子どもの声に耳を傾け、一方的な対応にならないように、子どもの思いを受け止めたうえで、発達や年齢に応じた支援を行っている。トラブルが生じたときには、傷ついてしまったお子さんのケアも大切にしているが、傷つけてしまったお子さんのケアも同じように大切に考え丁寧に対応している。子ども同士の関わりの中で生じたトラブルは、双方の保護者にも理解してもらえるよう送迎時に丁寧に伝えている。</p> <p><b>小学校への円滑な接続に向けて、近隣小学校との連携に取り組んでいる</b> 小学校就学への円滑な接続に向けて、保育所児童保育要録を作成し小学校との連携に取り組んでいる。支援や配慮が必要なお子さんの保護者には、就学支援シートの活用について説明し、希望者には配布している。5月の保護者会では近隣の小学校の校長先生を招き、5歳児保護者を対象に小学校入学に向けての話を聞いたり保護者の質問などに回答していただく機会を設けた。5歳児は、就学に向けて年末から少しずつ午睡を短くし、年明けから午睡をなくしていくよう計画している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
<p><b>登降園時の保護者との対話や連絡ノートで、子どもの様子を確認し共有している</b>          保護者との連絡は、乳児は連絡ノートを活用し、子どもの家庭での様子や状況、健康状態を把握している。また、送迎時の保護者とのコミュニケーションも大切と考えており、必要事項を簡潔に伝え、聞き取りができるように心がけている。登園時には保育者が子どもの顔色、表情、機嫌等、健康観察をして保護者に健康状態等子どもの様子を聞き取り、共有事項を「引き継ぎノート」に記載し、クラス内で情報共有をしている。全職員で共有すべき内容は、朝礼で共有し、支援につなげている。</p> <p><b>一人ひとりの発達に応じた基本的な生活習慣が身につくように、支援している</b>          全体的な計画のもと、基本的な生活習慣が身につくよう、看護師や栄養士による健康教育や栄養指導を各年齢に合わせて行っている。食事のマナーや食具の持ち方、手洗い習慣、トイレトレーニングなど個人差や年齢に沿って無理なく身につくよう担任と看護師、栄養士が共有し進めている。特に3・4・5歳児は安全や健康、体の大切さなどの指導計画を「年間保健計画」の中に「園児への健康教育」として立案し、担任、看護師と共に、子どもたちが分かりやすく理解できるよう工夫している。</p> <p><b>子どもの年齢や体調等に配慮しながら午睡時間を設定し、生活リズムを整えている</b>          登園時間が早い子や保育時間が長い子など、個々の状況に配慮しながら午睡時間を設定し子どもの生活リズムを整えている。午睡ができなかった子や早く起きてしまった子には静かに過ごせるように配慮している。午睡の時間は眠れない子は無理に寝かせるのではなく体を横にして休息をとることを大切にしている。5歳児は、年末から少しずつ時間を短縮し、1月からは午睡をなくしている。ただし、個々の状況によっては仮眠したり横になるなどの対応をしている。</p>		

3 評価項目3		評点(〇〇〇〇〇〇)
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもの自主性、自発性を尊重し、室内環境構成の工夫と充実を図っている</b></p> <p>保育室内の環境では、玩具は子どもたちが安全に主体的に選べるよう配置し、遊びに集中できるよう友だちと一定の距離感を保てるような空間づくりを意識して行っている。1歳児から5歳児の子どもの遊びや発達の連続性を踏まえた年間指導計画を作成している。5歳児は保育室の一角を積み木等の制作コーナーにしており、子どもたちが数日間継続して作り上げることができるように片づけは1週間に1回にするなど、子どもの満足感や達成感に配慮している。他の子から見えにくいよう一人で落ち着いて遊びたい気持ちにも寄り添った環境も工夫している。</p> <p><b>日々の活動の中で子どもの年齢、発達に応じた様々な表現が楽しめるようにしている</b></p> <p>年齢や発達に応じて子どもが友だちと一緒に自由に表現を楽しめるよう工夫している。4歳児・5歳児は保護者の方に見ていただく発表会形式で、3歳児は表現活動をビデオに撮り保護者に見ていただく機会を設けている。年齢に合わせて無理なく楽しめるように、5歳児は12月に、4歳児は1月に発表会を行い、3歳児は2月に表現活動の様子をビデオで撮る予定である。日々の保育でも子どもの思いや要求を汲み取り、気持ちや場面にあった言葉を年齢に寄り添いながら引き出せるように配慮している。</p> <p><b>季節の移り変わりなどを感じられるような野菜栽培や戸外活動を積極的に取り入れている</b></p> <p>園庭やベランダでは、バジルやナス、ピーマン、パプリカ、インゲン、半白節成きゅうり、里芋、アスパラなどいろいろな野菜を栽培し、野菜が大きく育つ過程での楽しさや収穫の喜びを味わう体験をしている。収穫した野菜を家庭にも持ち帰ることで、保護者も子どもと一緒に収穫の喜びや野菜の味に共感することができた。園庭遊びや散歩では、木の葉の色の変化や葉が落ちてくる様子、心地よい風や匂いなど、季節や自然の変化を肌で感じられるよう積極的に戸外での活動も取り入れている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>日常保育との連動性を大切に考え、子どもが積極的に楽しく参加できるよう工夫している</b>          行事は日常の保育の連動性を大切に、行事を通して育んでほしいことやねらいを職員間で共有し計画している。昨年度プール遊びの際に職員がペンギンに扮して子どもたちがとても喜んだことを活かし、今年度も遠足の前に、遠足に持って行く駄菓子をペンギンが配るなど、子ども一人ひとりが行事に意欲的に参加し、楽しめるよう工夫しながら取り組んでいる。季節の伝承行事は年齢に合わせて制作や絵画などの他、お月見では5歳児クラスは粉をこねてお団子を作り十五夜に園の玄関に飾るなど、楽しく行事に参加できるよう工夫している。</p> <p><b>子どもの興味や、やる気を引き出し、やり遂げた喜びが体験できるように取り組んでいる</b>          一人ひとりの子どもが主体的に行事に関わり、皆で協力し達成感を味わえるよう子どもたちの興味や、やる気を引き出している。夏まつりでは5歳児が2グループに別れて、グループごとに神輿作りをした。子どもたちが自分たちでどんな神輿にするか話し合い、出来上がった神輿は自分たちで担いで他の園児や先生に披露した。友だちや先生に見てもらい応援してもらうことで、更に友だちと協力してやり遂げた喜びや達成感を得られるような体験ができた。</p> <p><b>行事の取り組みをクラスだより等で保護者に伝え理解と協力が得られるように努めている</b>          行事の取り組みや様子をクラスだよりや保護者会等で周知し、運動会の前には見どころを記載したクラスだよりを配布している。活動後にはドキュメンテーションで子どもたちの様子を分かりやすく伝えている。子どもたちが楽しく意欲的に行事に取り組むために、保護者の理解と協力が得られるように努めている。保護者参加の行事後には、アンケートで感想やご意見を収集している。アンケートのご意見からの気づきや改善点などは次年度の行事に活かしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>保育時間が長い子どもが安心できるような環境を整え、関わりにも配慮している</b>          延長保育時間は18:15～19:15となり、保育時間が長くなる子どもたちが保護者を待つ時間を安心して過ごせるよう、多目的室に集まりゆったりとした空間に配慮している。一日の疲れが出る時間であることを考慮して、疲れが見られる場合はマットやゴザを敷いて自由にごろんとしたり、好きな時にくつろぐことができるような環境を提供している。長時間保育の子どもの負担軽減については、精神的にも身体的にも安らかに過ごせるような工夫に努めている。保育者とじっくり関われる時間を設け、情緒の安定を図れるようにしている。</p> <p><b>異年齢児の子どもが安心して楽しく過ごせるよう工夫している</b>          子どもが寂しい気もちや不安を感じているときは保育者とスキンシップを図りながら、情緒の安定を図れるようにしている。また、日中には使用しない特例保育用の玩具を提供し、玩具の種類も乳児用、幼児用をそれぞれに揃えて、安心して遊べるよう配慮している。通常は保育時間が長い子どもは10人未満と少人数であるため、遊びの空間や遊具もゆったりと落ち着いて遊ぶことができ、年上の子が年下の子の面倒を見てあげたり遊んであげたりしながら異年齢児の関わりも充実した時間を過ごしている。</p> <p><b>保育形態の変化はあるが、職員間でしっかり引き継ぎ子どもの一日の状況を把握している</b>          保育時間の長い子どもが戸惑わないように、特例保育での人の動きや流れを職員間で統一している。特例保育では、日中の子どもの生活リズムや心身の状態、体調の変化などがあつた場合は特例保育の担当職員が把握できるよう引き継ぎに配慮している。保育形態が変わってもできるだけ子どもが安心して過ごせるように、いつも決まった非常勤職員が保育に入っている。職員は日中の子どもの様子やクラスの申し送り事項を引き継ぎ簿でチェックし、保護者に伝える事項が漏れのないように努めている。万一、漏れがあつた場合は、必ず保護者に電話連絡をしている。</p>		



6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>落ち着いた雰囲気の中で子どもが楽しく食べられるような配慮がされている</b>          子どもの年齢や身体の成長に合わせた高さのテーブルや椅子を使用している。1歳児は低月齢児の椅子にひじ掛けがあり、高月齢児の椅子はひじ掛けがないなど、同じ年齢であっても成長に合わせたものを使用している。保育者は必要以上の会話を控え、落ち着いて安心して食事を食べられるように配慮している。幼児の担任は、子どもと一緒に指導食を喫食し、子どもと同じ食事をとりながら、美味しさを共有したり食具の使い方、食べ方などを指導しながら食育にも繋げている。</p> <p><b>栄養のバランスや味付けに配慮した献立を作成し、食物アレルギーへの対策も講じている</b>          入園時にアレルギー食対応が必要な子どもの情報を保護者から丁寧に聞き取り対応している。アレルギーであっても、できるだけ他の子どもたちと同じように提供できるよう、食材選びを工夫し、見た目の違いから差別感のないように配慮している。日々のアレルギー児への提供は、誤配膳を防ぐために、アレルギー食を初めに調理と担任がチェックし配膳している。クラスでは保育者同士がダブルチェックをしてから提供している。献立は栄養バランスや味付け等に配慮し作成しているが、日々の子どもの喫食状況を把握し、献立の改善にも努めている。</p> <p><b>子どもたちに食への感謝や食材への興味を促す食育活動が行われている</b>          季節に応じてベランダや園庭の花壇で野菜を栽培し、日々水やりなどの世話をしながら生長を確認し育てる喜びを体験している。当日給食に入る野菜を園の玄関に展示しており、子どもたちが自由に触れるようになっている。大田区で開催している駅ビル商業施設での食育フェアでは、クッキング保育や食育活動、栽培活動の様子を栄養士が中心になってドキュメンテーション形式で紹介し、地域の方々へ保育園の取り組みを理解していただくとともに、子どもたちが食への感謝や食材への興味が深まるよう取り組んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>基本的な生活習慣が身につくよう計画的に年齢に応じた保健指導を行っている</b>          乳幼児に育みたい健康な心と体、自分自身で健康で安全な生活を作り出す力を養えるよう年間保健計画を立案し、健康教育を実施している。年齢に応じた保健指導や安全に生活できるよう指導、援助に努めている。日常の保育の中で、手洗いやうがい大切さ、排せつ時の拭き方、感染症予防の方法やプライベートゾーンについて、命の大切さについて等を指導している。年1回、警察署員による交通安全教室、防犯についての体験指導も実施し、危険から自分を守る事の大切さを学ぶ機会を設けている。</p> <p><b>医療的なケアが必要な子どもの受け入れを専門機関と連携して対応している</b>          医療的なケアが必要なお子さんの対応については専門の看護師がお子さんの登園に合わせて来園し援助している。特別な援助や支援は必要ではあるが、できるだけ友達たちとの関わりや同じ空間で過ごすことの大切さを保育者は認識し、職員間で共有しながら子どもたちと関わる機会を設けている。保育士、看護師、栄養士がそれぞれの専門分野で協力し、専門機関と連携しながら、医療的なケアが必要なお子さんや保護者の方が、安心して楽しく保育園に来ることができるよう配慮している。</p> <p><b>様々な情報を保護者に伝え、子どもの健康維持に向けた取り組みを行っている</b>          入園時の説明や保護者会で、感染症予防対策や乳児突然死症候群の予防対策について話をしたり保護者の見やすいところにポスターの掲示をしている。乳児突然死症候群の予防として、午睡時には1歳児、2歳児は10分に1回、3歳児以上は30分毎に呼吸確認、顔色、体調の変化に気を付けながらチェックを行っている。全園児は仰向けで寝るようにしている。嘱託医による健康診断、歯科健診は年に各2回実施し、健康カードに結果を記載し、保護者に周知している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>個々の保護者の子育てや就労状況を把握し、柔軟に対応できるように取り組んでいる</b></p> <p>入園時に各家庭の個別事情や保護者の仕事、生活等の状況を把握し、入園後も日々の情報交換や定期的な面談から状況を把握し、支援に活かしている。また急な延長保育利用などの要請にも柔軟に対応している。保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるよう、日々、保護者との信頼関係の構築に努めている。朝の受け入れ時には、職員が積極的に、園児や保護者に明るく声掛けをしている。保育室での受け入れも、必ず対面で言葉を交わし、園児の健康観察とともに、保護者とのコミュニケーションを図っている。</p> <p><b>保護者会や行事など、園と保護者及び保護者同士の交流を図る機会を設けている</b></p> <p>例年、運動会や保護者参加の行事では保護者同士の交流が持たれるほか、今年度はコロナ感染症が5類になったことを受けて、保護者会では保護者の意見交換、交流ができる時間を設けた。開催後のアンケートでは、保護者同士、話をする機会があって良かったというご意見が多く、保護者交流の時間を設けたことで保護者同士の関係も深まったと感じた。保護者会の開催時間(13時から14時)に関しては、仕事を調整しての参加がしづらいという意見が多くあったため、来年度は検討していくことも考えている。</p> <p><b>園での生活や活動を伝え、保護者との共通理解に取り組んでいる</b></p> <p>毎日の連絡帳や送迎時の対話の中で日頃の様子を伝えている。1・2歳児は保育参観を実施し、3・4・5歳児は保育参加を実施した。参観、参加時間は保護者のニーズにできるだけ合わせて、午前中、昼食時、午後と時間を分けて自分の子どもの活動や見たい姿の時間に参加してもらうようにした。個人面談では、「すくすくプラン」を活用し、子どもの今の姿、保育園が大切にしたい育み、家庭で大切にしたい育みなどを記載し、園と保護者が視覚化したものを共有できるよう取り組んでいる。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>子どもたちがさまざまな人々とふれ合い、交流を持つ機会を広げている</b></p> <p>地域交流として、中学生の職業体験や、ボランティアによる絵本の読み聞かせなど、コロナ感染症が5類になったこともあり、積極的に交流に努めている。また、近隣の高校からは年に数回「おもちゃの病院」のイベントの案内状を頂きご家庭に配布している。園は、地域の方との交流やふれあいは子どもの成長にとって大切な取り組みだと認識し、子どもたちが体験する様々な人々との関わりは、交流する楽しさや、社会性を育む貴重な機会となっている。</p> <p><b>地域に開かれた保育園として、園庭開放や子育て支援に努めている</b></p> <p>地域の未就園児の親子が夏まつりに参加する機会や園庭開放や室内遊びの機会を設け、各回の参加人数を5組までと設定してゆっくり参加できるように配慮している。気軽に「あそびにいけるほいくえん」として地域だよりでもお知らせしている。また、2か月に1～2回程度体験保育を開催している。園見学の問い合わせがあった時などに、園見学と一緒に保育体験の案内もしながら参加を募っている。保育体験は在園児の保育園での様子を見ていただいたり、給食を未就園児に食べてもらう機会を設けながら、保育園の楽しさを知ってもらえるよう取り組んでいる。</p> <p><b>近隣の保育園や小学校との交流の再開に向けて期待したい</b></p> <p>5月の5歳児の保護者会では、近隣の小学校の校長先生に依頼し「小学校に行ったときにどのようなことが必要か」を丁寧に話をしてもらった。保護者からの事前のアンケートにも回答していただき、小学校入学までの1年間を見通しをもって園と保護者が連携できるような取り組みを積極的に行っている。近隣の保育園や小学校との交流は今後、感染症の状況を見ながら再開を考えており、早く再開できることを期待したい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	子どもが食に興味を持ち、楽しんで食べることができるような取り組みを工夫している	
内容①	季節の野菜を園庭やベランダで栽培し、収穫した野菜を食べる経験や野菜の皮むき、ピザ作りなど、年齢に応じたクッキング活動を子どもたちが体験することで、自然と食への関心や興味が生まれると考え実施している。毎日の給食に使われる野菜の一部を玄関に展示し、子どもたちが手に取りやすいように場所や高さに配慮し、匂いや感触を感じられるようにしている。栄養士が中心となり地域の食育フェアに参加し、子どもたちの食育活動を写真や文章で紹介し、外部の人々にも保育園の食育活動について理解を深めてもらえるように取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	日常の子どもたちの生活や遊びが豊かに展開されるよう職員で学び合い取り組んでいる	
内容②	子ども一人ひとりの発達の状況や興味、関心に合わせて、それぞれが主体的に楽しめるよう工夫している。5歳児では、積み木等の制作コーナーを設け、遊びは日々で途切れるのではなく継続して作り上げる楽しさを味わえるような工夫をしている。子どもが主体的に遊びを充実させるためにも環境設定を大切に考え、昨年度より継続して「主体的に遊べる保育とは」のテーマで保育環境の向上のために外部講師をお呼びして公開保育を行っている。今年度は更に地域の保育園にも参加を呼びかけ、子どもの遊びのための環境作りを積極的に学んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	地域への子育て支援を通じ安心して子育てができる保育園であることをアピールしている	
内容③	「子育て支援計画」の「地域への子育て支援」には、相談援助・交流の場の提供として、保育園見学会、育児応援事業、園庭開放、子育て相談、地域子育て支援等の活動が計画されている。例えば、園庭開放では1期：ポスターやチラシを利用して情報発信、2期：親子が遊ぶ姿を見守り、楽しく遊んでもらう、3期：園庭で遊ぶことが面白いと感じてもらえる環境や雰囲気づくり、4期：必要に応じて言葉をかけていく等、単に機会を提供することに止めず、実施目的や実施方法を明確にすることで活動内容を発展させている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	年齢に応じた育ちを大切にしつつ、異年齢児の関わりを通して子ども同士の育ち合いや子どもの意欲を尊重した取り組みに努めている
	内容	日常の保育は各年齢ごとに行っているが、朝夕の合同保育の時間や3・4・5歳児の異年齢児との活動や関わりの中で子ども同士の育ち合い、自主性を育めるような保育に取り組んでいる。定期的に、3・4・5歳児を9グループ程度の異年齢児グループに分け、散歩や活動の中で異年齢児との関わりが持てるよう工夫している。異年齢児の活動は子どもたちが理解し楽しめるよう、丁寧に進めている。初回は顔合わせから始まり、まずは4・5歳児と一緒に散歩に行くなど、無理なく子どもたちが参加できるように配慮している。
2	タイトル	地域の子育て支援の拠点として継続した取り組みと、地域資源や地域の人々との交流を通して、子どもたちの体験・経験の機会を広げている
	内容	地域の子育て家庭に向けて、保育園をより身近に感じ気軽に遊びに来てもらえるよう、近隣の出張所や児童館などにポスターを貼ってもらっている。在園児の散歩時には公園で遊んでいる未就園児の親子に園紹介カードを配って園の情報をお知らせし、園庭開放や園見学、夏まつりなどの行事の参加を呼びかけている。園児は、体験保育に参加した未就園児との交流や地域の図書館のお話し会、地域イベントへの参加、ボランティアによる読み聞かせ等を通して、色々な人と触れ合い、交流することで地域と関わる機会を広げている。
3	タイトル	医療的ケアの実施は子どもだけではなく、家族を理解し対応するようし、それらを職員会議や打ち合わせなどで細かく発信している
	内容	医療的ケア児の受け入れは「受け入れ実施マニュアル」の手順に沿って入園相談、入園決定、入園準備が行われた。入園後のケアの実施は担当看護師、担任保育士を中心に子どもだけではなく、家族を理解し対応するようし、それらを職員会議や打ち合わせなどで細かく発信し、インクルーシブ保育に向かう一歩を踏み出している。職員調査には「医療的ケア児や配慮児を安全に受け入れる体制(環境整備や看護師配置)が整っており、保護者や子どもが安心して過ごせること」他、数件の特に良いと思う点が記載され、職員の個人の尊厳に対する意識を高めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの情報や園の取り組み、保育に対する思いや考え方を保護者と共有できるよう、更なる工夫に期待したい
	内容	園内の廊下の壁には子どもたちの制作を掲示し、保護者がお迎えの際には他のクラスの作品も観ることができ、年齢によって作品の違いや子どもの成長なども感じることができる。コロナが5類に緩和され送迎時の保護者との対話時間は、コロナ禍と比べて取りやすくなったが、今年度は職員の入れ替わりも多く、保護者の不安な気持ちも利用者アンケートから伺えることから継続した保護者との関わりとともに、保護者会の時間が13時～14時頃の開催は出席がしにくいとの意見も複数あり、開催時間や曜日などの検討も期待したい。
2	タイトル	園は毎日の朝礼や会議等で情報共有をしているが、職員の連携や業務分担を更に円滑にすることにより、組織力の強化が期待される
	内容	保育経験が豊富な職員も多く、保育の取り組みや行事の工夫、地域との交流など、子どもたちがより充実した日常を過ごし成長できるよう様々な努力が見られる。今年度は、園長先生はじめ職員の異動者も多かったが職員アンケートから「相談がしやすくなった」「雰囲気明るくなった」等の意見も複数出ており、新体制になり肯定的な意見が多かった。反面、残業が多いなど、業務や体制に改善が必要と感じている職員の意見もあり、業務分担や働き方の見直しの検討が望まれる
3	タイトル	単年度計画に掲げた各計画の実現に向け、推進方法、目指す目標、達成度合い指標等を明示され、年度途中での進捗状況の確認が求められる
	内容	「入新井保育園 運営計画(中期計画)」が作成され「保育環境」他、計6課題について「令和5年度」に行う計画が明示されている。ただ、例えば「公開保育で出た意見や課題を検討し改善」のように定性的な表現が多く、どのような状態になったら計画が達成したと評価できるか明確ではない。また、「評価項目2-2-2 着実な計画の実行に取組んでいる」の対象は単年度計画に掲げた各計画であり、計画の推進方法、目指す目標、達成度合いを測る指標等を明示し、また、進捗状況を確認し必要に応じては計画の見直し求められる。検討が求められる。